

地域の環境教育・環境学習を推進する



ティーチャーズガイド制作のご提案

自然教育研究センター



アメリカの国立公園のティーチャーズガイド

ティーチャーズガイドって何？

「ティーチャーズガイド」は、自然公園等において学校教師や社会教育のリーダーが、環境教育・環境学習の活動を行うときに参考になるようにまとめられた資料（プログラム集）です。特定の場所を想定して作られるのが特徴です。

アメリカの国立公園では1990年代後半頃から、各公園における環境学習をいっそう普及するためにティーチャーズガイドが盛んに作られるようになりました。公園局のレンジャーが直接提供するプログラム（インタープリテーション）だけでなく、先生や環境学習のリーダーに対し詳しいガイドを提供することによって、間接的に公園の中で行われる学習機会を増やそうと考えたのです。

先生やリーダーは、公園地域でどのような活動ができるかを具体的に知ることができ、学習活動を計画する参考にすることができます。また、結果として公園地域の教育的利用が促進されることとなります。「総合的な学習の時間」が始まり、学校と自然公園等とのパートナーシップが求められている昨今、ティーチャーズガイドの役割は大きくなっていくものと思われます。

オーストラリアのリゾート地域ではリゾート関連企業の出資で公園関係団体がティーチャーズガイドを作っているような場合もあります。

いわゆる環境教育プログラム集とはどこが違うのか？

近年、たくさんの環境教育プログラム集が翻訳されたり、作られたりしています（有名なものではネイチャーゲーム、プロジェクトワイルドなどがあります）。これらはとても有用なものです。広く普及させるために汎用性の高いものとして作られているので、各地域で実施する際にはそれぞれの状況にフィットさせたり、地域固有のメッセージを載せていくという、アレンジの能力が必要になります。

ティーチャーズガイドは、題材を特定地域の資源に求め、実施場所などを具体的に想定して作られるプログラムなので、利用する側にとってより使いやすい強力なツールとなります。また、同時に公園等において発信したい固有のメッセージを利用者に伝えることができます。

いろいろなティーチャーズガイド

ティーチャーズガイドは実施するリーダーや、対象者によっていろいろな作り方ができます。学校のカリキュラムと関連させて特定の年齢層の児童生徒に絞ったものも考えられますし、社会教育グループを想定したレクリエーション要素の強いものも考えられるでしょう。ネイチャートレールの解説板などと連動して作成することもできます。さらにはガイドの活用のためのセミナーやワークショップを開催するなど、地域の環境学習を全体的に普及させていくことも考えられます。

自然教育研究センターでは、ティーチャーズガイドにいち早く注目し広く情報を収集してきました。インタープリテーションに関する豊富な経験をもとにして、それぞれの地域に合ったアイデアを提案し、地域の環境学習の活発化に貢献したいと考えています。

ティーチャーズガイドの効果

- ・ 地域の環境教育・環境学習の普及
- ・ 公園との教育的利用の増進

ティーチャーズガイドの一例

日立市助川山市民の森 (制作: 自然教育研究センター)

活動の実施に適した場所が具体的に示されています(このケースでは野外解説板と連動し、別ページにマップでポイントが示されている)

地域において環境教育上必要な題材が「ねらい」として扱われています。

こんなはずじゃなかったのに

里山トレール2

1. ねらい

アカマツの林の歴史を知る。
最近の日立市の里山に共通の、手入れがされていないかゆえの林の様子や特徴を知る。
この林の将来について想像してみる。

投げかける言葉の例

アカマツの下にアカマツの子供はあるかな？
(解説板を見て) こんなはずじゃなかったのに～じゃあどんなはずだったんだろうね。

ひきつけるネタ

この林の好きな所と嫌いな所を出しあってみる。
林に入る前の予想と林に入ってからの違い(感想)を話し合ってみる。

4. 具体的な展開方法(アクティビティ)

- 1) コドラート(方形区)調査をしてみよう。
 - ①10m×10mの方形区を作る(ひも等を張る)。
 - ②5種類の高木になる木を選び、1種類ごとに3人の担当を決める。そして、それぞれを以下の、3段階の高さごとの担当とする。
(3段階の高さの目安: ほぼ林の上まで達している/背より高く林の上まで達している/背より低いものから赤ちゃんまで): 15人必要。人数が多ければ木の種類を増やすか、それぞれの担当を増やす。記録係もつくる。
 - ③時間を決めて、方形区の中の担当した高さの木の数を数える。
 - ④一覧表にして比べてみる。
 - ⑤表からどんなことがわかるか話し合ってみる。

活動の進め方が具体的に示されています

コピーしてそのまま学習に活用できるワークシートが付いています。

こんなはずじゃなかったのに

年 月 日 名 姓

10m×10mの広さの中にある木を調べてみよう

木の種類	高い木	自分の身長より高い木	自分の身長より低い木(赤ちゃん木)

この林は将来どうなるのか考えてみよう

日立市助川山市民の森ワークシート (Ver.1.1)

林はどんな林になっていくのか、皆で話し合ってみる。
ている林(一部管理している林)としていない林の違い(道の右と左)る。

とどんな林だったのか、話し合ってみよう。
な林になりそうか、考えを出し合ってみよう。

林は将来どうなるだろう)

い木	背の高さより高い木	赤ちゃんの木～背より低い木
0本	5本	0本
0本	3本	0本
0本	1本	2本
2本	1本	0本
0本	0本	1本



本事例のティーチャーズガイドは、公園地域内の野外解説板に連動しており、解説板ごとにこのようなアクティビティが作られています(40種類)。ガイドの中には、総論として全体的なねらいや活用の仕方、トレールマップ、解説板とアクティビティリストなどが含まれています。

< ティーチーズガイド作成の実績 >

ティーチーズガイドの作成は近年始まった新しい取り組みであり、国内ではまだ多くの事例がありません。弊社では、次のような作成事例があります。

- ・ 日立市助川山市民の森ティーチーズガイド
- ・ 東京都山のふるさと村ティーチーズガイド
- ・ 水窪カモシカの森の体験館ティーチーズガイド（作成中）

< 自然教育研究センター・インタープリテーションに関連したその他の業務 >

自然教育研究センターは、自然公園施設におけるインタープリテーション計画・実践を中心に、指導者の養成、教材の資料化など、インタープリテーションや環境教育に関わる業務を総合的に行っています。

業務例

- ・ インタープリター派遣
- ・ インタープリターの養成、研修会の企画運営
- ・ 自然公園施設、環境学習施設等のコンサルティング
- ・ インタープリテーション活動の評価・改善案の提案
- ・ 自然公園施設、環境学習施設等の管理・運営
- ・ 施設（ネイチャーセンター、ネイチャートレール、展示、野外解説板等）のプランニング
- ・ 自然教室など、自然ふれあいプログラムの実施
- ・ 地域の自然学習、環境教育、総合的な学習などの教材等の作成
- ・ 企業の環境活動のコンサルテーション（環境ボランティアの養成研修、活動のコーディネート当）

お問い合わせは...

（株）自然教育研究センター



〒190-0022 東京都立川市錦町 2-1-22

電話 042-528-6595 ファックス 042-528-6596

E-mail : ces@interpreter.ne.jp

ホームページ : <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/CES/>

担当：小林 毅（こばやし・たけし） 古瀬 浩史（ふるせ・こうじ）